

令和7年度 2学期 学校評価の結果から

◇保護者から

(1) 肯定的回答(当てはまる・まあまあ当てはまる)率が95%以上の設問の一部

調査項目	肯定比率	前回比 ※未記入は±0
3 子どもは、学校や社会の決まりやマナーを守って生活している。	98%	
6 子どもは、困ったことがあったとき、誰に相談したらよいか知っている。	98%	+1%
17 学校は子ども達の良いところや頑張ったことを適切に評価している。	98%	
19 学校は、子ども一人一人を大切にし、困り感に応じた学習支援を行っている。	98%	+2%
20 学校は、掲示物や栽培・清掃等できれいな環境作りに努めている。	99%	+5%
24 学校は教育方針、教育活動、子どもたちの様子を学校だより・学年だより、授業参観等を通して保護者に伝えている。	99%	+2%
25 学校はPTAや地域の方々と協力して、教育活動を進めている。	99%	+1%

3については、規範意識の定着化が進んでいるように感じる。これは各家庭での粘り強いご指導と、学校での指導が歩調を合わせている成果と捉えることができる。学年が上がるにつれて見られる落ち着いた態度は、他者を尊重する心の表れと取ることもできる。今後も公共の精神を重んじる態度の育成に努めていきたい。

6については、相談先の認知が高いことは、安全・安心な学校づくりにもつながると考え、今後も「先生に話せば大丈夫」と思える信頼関係の構築を大切にしていける。SC・教育相談員との連携も含め、子どもたちが一人で悩みを抱え込まないよう、組織的な見守り体制を一層強化したいと考える。

17については、テストの結果だけではなく、行事での活躍や日常の善行を価値付けることが自己肯定感の向上に繋がっていると考える。これからも全ての教職員が子ども達の光る場面を見逃さず、自信をもたせるような温かな声掛けができるように努めていく。

19については、個々の困り感に応じた支援への成果と考えることができる。私たち教職員が多様な学びのニーズに応えることは、子どもたちが安心して過ごせる教室づくりになると考える。今後も関係機関との連携やユニバーサルデザイン(全ての児童にとって学びやすい環境)の視点を取り入れた授業改善を推進し、きめ細かな教育支援の充実を図りたい。

20については、環境整備への高い評価に感謝すると共に、保護者の皆様のご尽力のおかげと捉える。校内を美しく整えることは、子どもたちの落ち着いた心の育成に直結すると考える。今後も学習に集中できるような清潔感のある学校環境の維持に努めていきたい。

24・25については、これまでも継続している、学校・家庭・地域が協働・共有体制を推進してきたことへの評価であると考え。今後も3者が手を取り合い、学校力・地域力の向上を目指すようにしていきたい。

(2) 肯定的回答率が86%以下の設問の一部

10 子どもたちは、宿題等家庭学習を行う習慣が身についている。	81%	+1%
12 子どもたちは、うがいや手洗いの習慣が身についている。	82%	
14 子どもは、何事もすぐにあきらめずに最後まで取り組もうとしている。	86%	-2%

10については、学年が上がるにつれ学習内容が難しくなり、机に向かうハードルが上がっている傾向もあると考える。学校での宿題提示の工夫に加え、ご家庭との連携等の支援について再考の機会としたい。

12 については、集団生活における感染症予防の重要性を改めて児童と確認し、自分事として捉えさせるようにしたい。

14 については、困難な課題に直面した際、粘り強くやり遂げる「耐性」の育成が今後も必要と考える。授業の中ではスモールステップの成功体験を積み重ね、結果だけでなく「最後まで取り組んだプロセス」を最大限に認め、励ます指導を推進するようになりたいと考える。

◇児童から

(1) 肯定的回答率が95%以上の設問の例

8	授業に一生けんめい取り組んでいる。	98%	
9	学習したことが身についている。	97%	+5
18	授業は、わかりやすい。	97%	+1
19	先生方は、一人一人を大切にし、学習や生活で困っている時に助けてくれる。	97%	+2
23	登下校時には、ルールを守り安全にすごしている。	99%	+2
25	保護者や地いきの人の協力を感しゃしている。	98%	+1

8 については、2 学期は行事と学習のメリハリをつけ、意欲的に課題へ挑戦する姿が多く見られた。子どもたちの知的好奇心を大切に、3 学期も一人一人が主役となる、活気と達成感のある授業づくりを推進したい。

9 については、毎日の授業の積み重ねが、子どもたちの「わかった・できた」という確かな手応えに結びついていると考える。この自信をさらなる学びの意欲へ繋げられるよう、習熟に応じた丁寧な指導に努めていきたい。

18 については、ICT 機器の活用や教材の工夫など、教員による授業改善の取り組みが子どもたちの理解を助けられていると考える。今後も対話的な学びを深め、思考力や表現力をより高める授業を目指していきたい。

19 については、教職員と子どもたちの間に信頼関係が築かれ、学校が安心できる居場所となっていることが推察される。今後も個々の困り感に寄り添ったきめ細かな支援を心がけ、誰もが安心して過ごせる学校となるように努めたい。

23 については、日頃の安全指導と、地域の皆様による防犯パトロール等が子どもたちの安全意識に繋がっていると考えられる。今後も自習的に危険を回避し、自分の命を自分で守る態度を継続して育んでいくようにしたい。

25 について、支えられている実感は自己肯定感や豊かな人間性を育む源泉であり、保護者の方や地域の温かい支援は子どもたちにとって大切なものと捉える。今後も地域と共にある教育活動を通じて、感謝の心を育んでいきたいと考える。

(2) 肯定的回答率が92%以下の設問の一部

4	自分には、よいところがあると思う。	92%	
7	相手のことを考えて、行動したり話したりすることができている。	92%	

4 については、自己肯定感の醸成は教育の根幹であり、自分に自信をもてない児童が一定数いると考えられると、懸念事項であると捉えられる。他者との比較ではなく、昨日の自分と比べて「できたこと」を認める機会が多くなるように支援したい。授業や行事を通して、一人一人の個性が輝くような成功体験を積み重ね、自信へ繋げられるようにしたい。

7 については、学校生活において、自分本位な言動が出てしまう場面が多少あることが推測される。道徳の授業や異学年交流を通じ、相手の立場を考慮することの大切さを考えると同時に、優しさが循環する温かな人間関係が構築できるよう、学校全体で取り組んでいきたいと考える。